



日 時 11月25日(月) 13時30分～15時30分  
集合場所 ふじみ野駅東口  
講 師 富士見市資料館友の会 ふるさと探訪会  
受 講 生 7名

～ふじみ野地区の寺社、石造物を訪ねる～

平成5年11月に開設した、ふじみ野駅の周辺は大規模区画整理によって大きく変貌しました。開発前は、「桔梗ヶ原」→「勝瀬原」と呼ばれ、武蔵野の面影を残し一面畑が広がっていました。

本日はふじみ野地区の寺社、石造物をめぐるコースです。見どころは、護国寺の市内最古の大型板碑・お舟山伝説のある榛名神社。秋の一日の歴史散策を楽しみました。

コース

ふじみ野駅東口→桔梗ヶ原緑地公園→勝瀬原記念公園→安産祈願の馬頭観音  
→護国寺・護国寺大型板碑→榛名神社→お舟山→コロボックルの碑  
→ららぽーと公園 約4km



ふじみ野駅でコース説明

### ① 桔梗ヶ原緑地公園

さかい川（現：第2砂川堀雨水幹線）の手前に整備されている公園です。  
緑地公園の名前の桔梗ヶ原は、以前ふじみ野周辺に群生していた桔梗に由来。  
駅前にこんな歩道があるなんて想像もできません。



### ② 勝瀬原記念公園

平成19年7月に開設されました。  
公園入口に立っているのが、富士山をイメージした竣工記念碑「絆」。記念碑近くの通路には、勝瀬原の旧道と旧字名を埋め込んだ地図がありました。  
字名を探すだけでも楽しめました。



### ③ 安産祈願の馬頭観音

鈴木家屋敷神の馬頭観世音2基が道路に面して並んでいます。「享保八年(1723)六月施主勝瀬村中、享保八年(1723)二月施主勝瀬村鈴木吉衛門」と刻まれています。ご利益は昼間、夜間いずれかの出産をお願いすれば希望が叶えられ、以前は多くの産婦が遠くからお参りにきて、安産を祈願したと伝えられています。



### ④ 護国寺・護国寺大型板碑

龍王山薬王院護国寺という天台宗の寺院です。創建年代は不明ですが、護国寺公式サイトでは「鎌倉期成立の天台宗の古刹です」としています。川越市の古谷本郷の灌頂院の末寺です。江戸時代に寺子屋が開かれ、明治初年には勝瀬学校になりました。

大型板碑（市指定有形文化財）…市内最初期のものの一つです。

護国寺境内の板碑3基のうち、2基はほぼ完全で高さが3m近くあります。





大型板碑の説明

⑤ 榛名神社

勝瀬の鎮守。「はんなさま」と親しまれています。ご祭神は埴山姫命はにやまひめ(土の神)と、豊受姫命とようけひめ(五穀豊穰の神)の二柱の女神です。毎年4月10日の例大祭は「はんなさま」と親しまれています。群馬県の榛名神社とは無関係と言われています。  
銀杏(市指定天然記念物) 推定樹齢はおよそ400年、樹高約23m、樹径1.5mです。



## ⑥ お舟山

長さ約50m、幅約25m、高さ約2mの細長く小さな山です。この山が人工的なものか自然地形か、いまだわかっていません。

※お舟山伝説（榛名神社創立に関わる伝説）



## ⑦ コロボックルの碑（貝塚稲荷旧石碑）

明治40年東京帝大（現東京大学）の学士達が貝塚山の周辺から収集した石器、遺物から「今から3千年前のコロボックル人種の居住せるあと」と説明。その3年後の明治43年（1910）3月、奇しくも貝塚山の貝塚稲荷社跡地で人骨・直刀が出土。当時、帝大（現東京大学）の坪井博士が日本人起源としてコロボックル説を唱えていたので大きな話題となりました。

明治末には考古学の進歩で否定され、ことばの遺物となりましたが、大正元年に造立された「貝塚稲荷旧石碑」は裏面に「コロボックル人種遺物」と刻まれ、全国でも数少ない歴史的な碑として貴重なものとなっています。市の考古学発祥の記念碑として昭和50年（1975）11月に市の有形文化財に指定されました。

※ここで解散となりました。

各ポイントでの解説は、当日配布されたガイド資料によるものです。



## ◆同行記

昔は桔梗の花が咲き乱れていたことから、勝瀬原と言われる前は桔梗ヶ原と呼ばれていた駅前の小道から始まって、駅前再開発の象徴である勝瀬原公園を巡り、護国寺、榛名神社、コロボックルの碑などを巡った。

榛名神社は榛名山とは直接関係はないようで、地域では「はんなさま」と親しまれている。こちらの神社には、「お舟山伝説」という榛名神社創立に関わる複数の言い伝えがあるそうだ。

そのひとつに、昔、一帯が海辺だった時、榛名さまがお供の 2 人を連れて舟でこの地に降り立った。乗っていた舟はいつしか岸を離れ沈んでしまった。

もうひとつの伝説は 3 柱の祭神の名前が異なっていて、舟が沈みそうになるとき、大きな藤の木に掴まり上陸を果たしたという。

いずれにしても舟で 3 柱の祭神が降り立ったこと、舟が沈んでお舟山という微高地が現存するということだ。ふるさと探訪部会の保坂さんか、持論として面白いお話をしてくださった。

日本の神話の成り立ちを考えると、縄文海進の時代は伝説には早すぎるので、低湿地のこの場所ももとの荒川であったびん沼川が頻繁に増水して辺りが沼や湖のような状態にあったところを海といったのではなかろうかということだった。

もとの荒川上流には、多くの渡来人が入植して、朝鮮由来の知識や技術を広めていたそうだ。その中の 3 人の渡来人が舟を下ってこの地に上陸。様々な知識や技術をこの地で広め、その後 3 人の渡来人が亡くなった言い伝えが、やがて 3 柱の祭神として祀られるようになったのではないかというご説明だった。

祀られている祭神に関しても諸説あるようだが、ハニヤスヒメ、トヨウケヒメ、弁財天と 3 柱とも女性神であることも興味深い。

地域巡りで他にも、長瀬から緑泥片岩を切り出した護国寺の大型板碑や、今では珍説として退けられているが、コロボックルの碑が当時の東大の学生たちによって調査された記念としてあった。

私が現役で働いていた頃は、ふじみ野は帰って寝るだけで何も知らない場所だったが、ゆっくり地元の歴史をたどることができて、この富士見市への愛着の度合いが深まったのはありがたいことだった。ふるさと探訪部会の皆様、ありがとうございました。(出井あや子)